

施策評価調書(22年度実績)

政策体系	施策名	高齢者の安心と生きがいづくりの推進	施策コード	II-3-(1)
	政策名	自立と社会参加を支援する社会づくりの推進	主管部局名	福祉保健部
			担当課室名	高齢者福祉課
施策概要	高齢化がますます進展する中、高齢者が生きがいを持って過ごすことが可能となるような社会環境づくりや、住み慣れた地域で安心して生活を送るための介護サービス提供体制、生活支援サービスの充実に取り組む。			

【評価指標】

	主な取組	指標	基準値		22年度			27年度
			年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値
①	高齢者の生きがいづくり	i 老人クラブ加入者数	16	116,148	129,000	95,458	74.0%	135,000
		ii 大分県ボランティアセンターの60歳以上登録者数	16	6,503	7,200	12,710	176.5%	7,500
		iii ふるさとの達人登録者数	18	0	136	292	214.7%	—
②	高齢者介護支援システムの充実	iv 特別養護老人ホームの整備床数	16	4,585	5,140	5,220	101.6%	—
		v 訪問介護員研修参加者数	16	415	380	665	175.0%	—
③	高齢者の生活支援と認知症高齢者対策の推進	vi 認知症介護研修修了者数	16	297	514	510	99.2%	—
		vii 住宅改造助成件数	16	299	122	124	101.6%	—
		viii 認知症サポーター数	21	17,610	22,750	23,087	101.5%	—
					平均達成率(%)		130.5%	

【業績評価】

No.	業 績 評 価		平均 評価
i	著しく不十分	社会奉仕活動や一人暮らし高齢者への訪問活動等の経費に対し助成等を行うことにより、老人クラブ活動の活性化が図られたものの、目標値を下回った。	
ii	達成	ボランティア活動に関心のある方に対して、体験する場を提供する福祉ボランティア体験研修などを通じて、ボランティア登録者数の増加が図られ、目標値を達成した。	
iii	達成	豊かな経験や知識、技術を持つ「ふるさとの達人」が登録(3分野292名)され、地域活動において中心となる人材の確保が図られ、目標値を達成した。	
iv	達成	豊の国ゴールドプランに基づく特別養護老人ホーム等の増改築により、計画的な老人福祉施設の整備と生活環境の改善が図られ、目標値を達成した。	
v	達成	研修の実施により、訪問介護サービスの担い手である訪問介護員(665名)の資質の向上が図られ、目標値を達成した。	
vi	概ね達成	研修の実施により、訪問介護事業所の職員(510名)が、認知症介護に関する知識や技術について習得することができ、目標値を概ね達成した。	
vii	達成	住宅設備の改造に要する経費に対し助成(124件)を行うことにより、介助する家族等の負担と本人の身体的・精神的苦痛の軽減が図られ、目標値を達成した。	
viii	達成	認知症に関する理解の促進を目的とした普及・啓発や講演会の開催などを通じて、市町村等が行う認知症サポーターの養成(延べ21,251名)を支援し、目標値を達成した。	
			達成

【施策目的を達成するための主な事業(22年度)】

指標No.	事業名	事務事業評価		事業コスト
		総合評価	掲載頁	
i	1 老人クラブ助成等事業	現状維持	-	40,517
ii	1 福祉ボランティア活動推進事業	廃止(22年度末)	-	5,992
iii	1 高齢者いきいき実践活動支援事業	現状維持	49	9,007
iv	1 老人福祉施設整備事業	現状維持	-	172,742
	2 介護基盤緊急整備事業	終了(23年度末)	51	2,439,582
v	1 ホームヘルパー等助成事業	現状維持	-	1,472
vi	1 認知症高齢者対策事業	現状維持	-	13,152
vii	1 在宅高齢者住宅改造助成事業	現状維持	-	17,626
viii	1 認知症にやさしいまちづくり事業	終了(23年度末)	-	28,522

【構成事業の妥当性】

老人クラブ活動の活性化を支援し、高齢者が自らの健康を保持し、支え合い、地域貢献を推進することを目的とする事業や、いきいき実践大学などのスポーツや学習の機会を提供する事業、住み慣れた地域で安心して暮らしていくための介護サービス提供体制の整備や認知症高齢者対策などの推進を目的とする事業、医療と福祉、介護の現場において連携を促進する事業により構成されており、施策を推進するために必要なものとなっている。

【施策主管部局評価】

評価	ア 拡充	イ 現状維持	ウ 見直し
理由		○	
	高齢化の進展に伴い、今後増加していく認知症高齢者の対策や需要の増加・安全対策等が求められる介護基盤(施設整備やスプリンクラー設備等)を整備する必要がある。また、団塊の世代が高齢期を迎え、高齢者に対するスポーツ・文化・学習などの生きがい・健康づくりも重要である。		

【施策目的を達成するための主な事業(23年度)】

指標No.	事業名	取組内容	事業コスト
i	1 老人クラブ助成等事業	社会奉仕活動等を実施する老人クラブに対し、活動経費の一部を助成	40,517
ii	1 福祉ボランティア・市民活動推進事業	福祉ボランティア体験、専門・リーダー研修の実施	5,992
iii	1 高齢者いきいき実践活動支援事業	いきいき実践大学の開催や元気高齢者と子育て等地域ニーズとのマッチングのシステムを構築	9,162
iv	1 老人福祉施設整備事業	特別養護老人ホームの創設の整備に対する補助	173,840
	2 介護基盤緊急整備事業	小規模(定員29人以下)の特別養護老人ホーム等の施設創設や増設、スプリンクラー設備の整備、施設開設準備に対する補助	2,247,963
v	1 ホームヘルパー等助成事業	テーマ別技術向上研修やサービス提供責任者研修の実施	1,472
vi	1 認知症高齢者対策事業	介護保険事業所の職員に対し、認知症高齢者の介護に関する専門研修等の実施	13,142
vii	1 在宅高齢者住宅改造助成事業	要介護高齢者世帯等が行う住環境整備に要する経費に対する助成	18,360
v	1 認知症にやさしいまちづくり事業	認知症における医療・福祉分野の連携体制の構築や家族支援	29,741

【今後の施策展開の方向性】

高齢者が豊かな経験や知識・能力を活かしながら、生涯を健康で生きがいを持って暮らしていけるように、地域における社会貢献活動や学習・文化活動などを積極的に支援するとともに、これらの中核となる老人クラブへの加入を促進し、「生きがいづくり」、「健康づくり」活動の活性化を図る。
また、今後も増加すると見込まれる認知症高齢者及びその家族の方が、地域で安心して暮らせるように、認知症を正しく理解し、地域での生活を応援する「認知症サポーター」の養成を支援し、関係者の資質の向上を図るための研修を実施するとともに、地域資源の情報提供や関係者のネットワークづくりなど地域ぐるみで支える体制づくりを推進する。